広報誌 ハート
2014.12
Vol.15

ごあいさつ

杉循環器科内科病院 院長　杉　健　三

この地域は、福岡県の保健医療福祉行政の上では「有明保健医療圏」とされ、大牟田市、みやま市および柳川市で構成されていますが、既に医療機関数も病床数も非常に多い地域で、病床数は人口10万あたり2,500以上（全国平均は人口10万あたり約1,300床）と国が医療法で定めた基準病床数を2,000床近く越えており「病床過剰地域」と呼ばれています。

このため、数年内に福岡県が策定することになっている「地域医療構想（地域医療ビジョン）」に基づいて、有明医療圏での病床数の大幅な削減と病床区分の再編成は避けられないと考えられます。

また、この地域の高齢化率も2010年の時点で既に29.5％（大牟田市に限れば現在32.9％）を越えており、2030年には39.7％と超高齢社会に移行すると予測されています。増え続ける高齢者が可能な限り自宅など住み慣れた地域の中でその能力に応じて自立した生活を営んで行けるように、住環境、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供するための制度を整備することにより、医療・介護サービスに関わる多くの職種が連携して地域を支えていく体制が「地域包括ケアシステム」で、今後この実現のための施策が推し進められて行くことになっています。

「地域医療ビジョン」による病床の数と機能の再編、および「地域包括ケアシステム」による医療と介護サービスとの連携の強化などにより、2025年のこの地域の医療・介護サービス提供体制は現在とは大きく変わったものとなると考えられます。

杉循環器科内科病院を運営する医療法人シーエムエスも、今後はこれらの施策に積極的に対応して行かなければならないと考え、従来からの循環器病および腎臓病に特化した急性期医療に加えて、この7月には訪問看護ステーションを開設、訪問看護や訪問リハビリテーションへの対応など在宅医療への取り組みも始めました。さらに「柳川すぎ病院」では柳川地区の在宅医療への支援機能および循環器内科専門診療体制の整備を急いでいます。

また、関連の社会福祉法人木犀会では、「ケアハウスやぶつばき」（軽費老人ホーム）、「小規模多機能施設こどう」および「特別養護老人ホームすぎの木」と、それぞれに併設した在宅・居宅高齢者支援のためのデイサービスなどの介護事業を行っています。

これらは、今後に予想される医療・介護・福祉に関わる施策に対応して行くことで、高齢先進地と言われるこの地域に住む方々がいつまでも自分らしい生活を安心して続けて行かれることに、私たちがお役に立てる存在であり続けるための事業です。

将来にわたって、これまで以上に医療と介護を通じて、私たちは有明地域に貢献して行きます。

医療法人シーエムエス
杉循環器科内科病院
〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1（誠修高校前）
TEL（0944）56-1119　FAX（0944）56-2077
E-mail：info@sugi-hosp.jp　URL http://www.sugi-hosp.jp

柳川すぎ病院

柳川すぎ病棟 師長　末　松　礼　子

柳川駅より徒歩約3分のところに位置する柳川すぎ病院は、3月には改修工事が終了し、院内は白さが時には眩しく明るい雰囲気に変わりました。

一般病棟63床で、看護職は18名、看護方式は、8月より個々の患者さんのことを把握しやすく、継続性のある看護が提供できる固定チームナーシングを導入しています。外科から内科の病院に変わり、看護の内容も老人看護を主とした内科看護へと変わりました。ですが看護の本質は変わりません。看護とは何かを考え、個の患者さんにとっての最適の看護、心温まる看護を提供できるナースへと成長できるよう院内、院外研修へ参加し、日々研鑽しています。

まだまだ、認知度の低い病院ですが、杉循環器科内科病院や柳川、大川市の病院、施設と連携し患者さんやご家族の信頼を得、地域に貢献できる病院となるよう邁進してまいります。

外来診察

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	診察室	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）
午前	診察室	青木　浩樹（循環器内科）	朝川　貴博	堀内　雅彦（呼吸器内科）	香月与志夫 第1、3週（循環器内科）	水田　吉彦（循環器内科）	石松　高（循環器内科）
午前	診察室	吉野　哲慎		倉八　朋宏	外山　康之 第2、4週（循環器内科）	中根　智幸 第2、4週（消化器内科）	
午前	診察室				橋詰　直樹		
午後	診察室	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	上野　高大（一般内科）	
午後	診察室	青木　浩樹（循環器内科）	朝川　貴博	倉八　朋宏	橋詰　直樹	水田　吉彦（循環器内科）	
午後	診察室	古野　哲慎				中根　智幸 第2、4週（消化器内科）	

医療法人 シーエムエス 柳川すぎ病院
〒832-0826 柳川市三橋町高畑263-1
TEL(0944)72-7171　FAX(0944)72-7173
URL http://yanagawa.sugi-hosp.jp

医療機能評価3rd：Ver1.0の受審を終えて

副院長兼看護部長　**紫牟田　静　子**

ケアプロセス評価練習

今回3度目の医療機能評価を受審して、今までとの評価の違いに驚いたり、納得したり、新しい評価体系に時代の流れを感じたりした次第です。

平成26年1月、日本医師会館での説明会に行き、病院機能評価の新体系の説明を受けて、「さあ大変だ」と帰ってきたのですが、これまた今年の3月より電子カルテ導入、DPC算定導入と重なってしまいました。電子カルテに慣れるのにやっとの慌しい中で、看護部は看護手順から大幅な改訂が必要になり、電子カルテの操作マニュアルやら手順書をスタッフみんなで手分けして、師長はじめ、各委員会の担当者もマニュアルの整備と議事録の確認に追われました。

院長の常日頃からの言葉であったように、医療機能評価を受審するのは、自院の診療や看護の質向上のためであり、その努力や過程が大事であるということです。普段の自らの努力が優れた結果をもたらしているのかどうかを客観的に確認する機会であります。とは言え、ケアプロセス調査の内容を聞き、電カルにもまだ不慣れな私たちは、医師や他職種と共に練習を重ねました。病院内もラウンドを行い、掲示物の確認や、整理、整頓、清潔を念頭に自己評価して回りました。物の配置を考え、少しずつ改善できたと思います。

11月26日、4人のサーベイヤーを迎えて、院長をはじめ多職種が挨拶を交わしてスケジュール通りに審査が始まりました。ケアプロセスでは循環器の代表的な疾患、「狭心症」と「心不全」の患者さんを選んで準備して、担当医師と師長がサーベイヤーの細かい質問に答えていきました。栄養士・薬剤師・理学療法士・社会福祉士の他職種が、調査の過程でうまく介入してくれて、チーム医療を再確認できました。審査を終えて思ったことは、サーベイヤーはやはり熟練している方たちであり、ラウンドやマニュアルや私たちの答え方からその実力を十分判断されただろうということでありました。

とても労力を費やす機能評価受審でしたが、医師をはじめ全職種の良い経験であり、自院の現状を把握するのに良い機会でありました。受審のたびに反省しています。基準を見直すことと、システムを検討する課題が残りましたが、今回スタッフの皆さんが一丸となって取り組んでくれたことが、大きな喜びであり、一生懸命遅くまで残って資料づくりに頑張っていた姿が浮かびます。皆さんの病院への貢献に心より感謝いたします。お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

職員による院内ラウンド

第4回 透析セミナー開催

透析室　看護師 副主任　**池田　伸也**

9月28日に特別養護老人ホーム「すぎの木」において、第4回杉病院透析セミナーを開催しました。透析患者さん50名、御家族8名、スタッフを合わせると93名の参加でした。

堀内雅彦副院長の挨拶の後、透析室看護部主任より患者満足度調査の報告がありました。今回のセミナーは「かゆみ」というテーマで、まず患者さんを代表して宮脇宛子さんから、ご自身のかゆみ体験を話して頂きました。かゆみへの気づき、克服、そして上手な付き合い方とわかりやすいスライドを利用して、段階的に話して頂きました。同じ治療をうけている方の体験談は皆さんとても興味深いようでした。

福山先生のお話では、かゆみのメカニズムから治療法まで分かりやすく説明していただきました。会場からはうなずきあり、其々の患者さんの心に響くものがあり、熱心にきいてある姿が印象的でした。

当院腎臓内科 福山美佐子先生による講義

第5回 透析料理教室

栄養室　**古田　睦**

11月2日(日) 第5回透析料理教室を開催しました。

透析患者さん8名、御家族7名の計15名が参加されました。

献立は、花ごはん、キスと山芋の天ぷら、春雨と豚肉炒め、コロコロポテトサラダ、パンナコッタでした。

今回は「1日当たりで考える」ということをテーマにし、1食で考えるのではなく、朝、昼、夕のバランスを考えながら食べることの重要性や、食品の組み合わせ方、選び方などを勉強しました。調理中はそれぞれ普段気をつけていることや工夫していること、気になること等、患者さん同士も意見交換しながらとても楽しそうに作業していました。また参加された方の中には、こんなに食べていいとは思わなかった、結構味付けがしっかりしているなど驚きの声も聞かれました。また参加したい、もっと開催してほしい等嬉しい声も多く頂きました。今後も患者さんの意見や情報を取り入れながら美味しく、楽しい料理教室にしていきたいと思います。

訪問看護ステーション設立

すぎ訪問看護ステーション 管理者　清田　玉美

平成23年7月から「杉循環器科内科病院　訪問看護」を始め、平成24年1月に「杉循環器科内科病院訪問リハビリテーション」を開始しました。

高齢で通院困難な方や退院後に自宅での療養生活に不安を持たれていた患者さんやその家族が、訪問看護やリハビリを受けられ、入院中と同様に看護ケアやリハビリが自宅で受けられ安心して生活が送れるとの嬉しい感謝のお言葉を頂き、在宅支援をより一層強化したく平成26年7月1日に「訪問看護ステーション」を開設致しました。

24時間安心して在宅療養ができるように営業日、営業日以外の時間において患者さん又は家族からの電話等による連絡及び相談が直接受けられる体制が整備されています。

杉病院の医師やスタッフとも連携し、病状の変化時等には早期に対応してまいります。

訪問看護の内容

①病状・全身状態の観察
②入浴介助や清拭・洗髪等による清潔の保持
③服薬管理
④リハビリテーション
⑤医師の指示による医療処置など

スタッフ：看護師3名、理学療法士2名

すぎ訪問看護ステーション
福岡県大牟田市大字田隈950-1
TEL・FAX 0944-32-9595

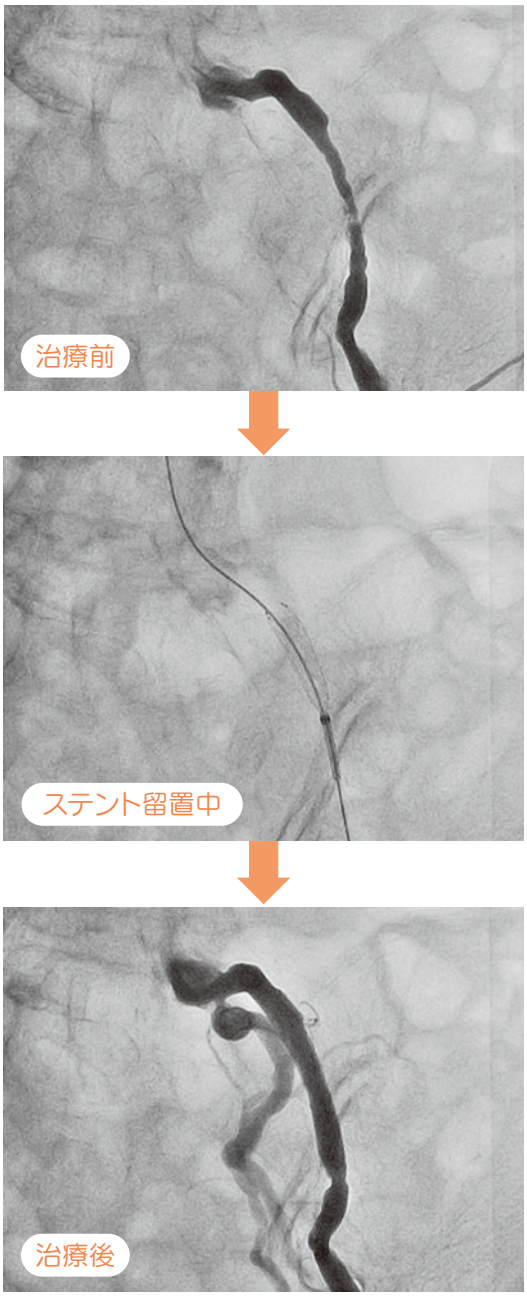
下肢閉塞性動脈硬化症と血管内治療

杉循環器科内科病院 医局長 外山 康之

下肢閉塞性動脈硬化症とは、足の血管の動脈硬化が進行し、血管が細くなったり、詰まったりして、十分な血液が流れなくなることで発症する病気です。これにより、歩行時に足がだるい、痛い(「間欠性跛行(かんけつせいはこう)」)などの症状が現れます。さらに病気が進行すると、歩けなくなったり、じっとしていても足が痛むようになったり、足に傷ができて治らなくなり、潰瘍・壊疽・下肢の切断(「重症虚血肢」)につながる病気です。

下肢閉塞性動脈硬化症の主な原因は、喫煙、糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満(特に内臓肥満)などです。また、腎不全のため透析を受けている方では発症率が高くなるため早期に検査・治療を行うことが重要です。

下肢閉塞性動脈硬化症を調べるには、問診や触診により比較的簡単に発見することができます。まず、足の症状(歩くと片側の足が痛い、冷感がある、しびれるなど)をお伝えください。触診では足の脈拍の左右差や足の皮膚温を調べます。次に足の血圧を測定するABPI(Ankle Brachial Pressure Index:腕の血圧と足の血圧の比)という検査を行います。血流低下が疑われる症例では、下肢の動脈の血流を超音波で評価したり、造影剤を使ったCT検査を行ったりします。カテーテルによる血管造影は入院で行う検査です。腕や脚の血管から細い管(カテーテル)を挿入し、評価したい血管を直接造影します。



最近ではカテーテルを用いた血管内治療の進歩が目覚ましく、当院でも治療数が年々増加しています。血管病変にワイヤーを通過させて、それに沿わせてバルーン(風船)やステント(金属の筒)を進めて広げる治療です。この治療は全ての病変に行えるわけではなく、血管病変の部位や性状を見極め、きちんと治療適応を選択することで、長期的にも安定した成績を得ることができるようになります。なかには外科的に血管と血管をつなぎ合わせるバイパス手術のほうが向いている場合もあります。血管内治療は体への負担が少なく繰り返し治療ができるのが利点で、今後当院でも積極的に治療を行いたいと考えています。

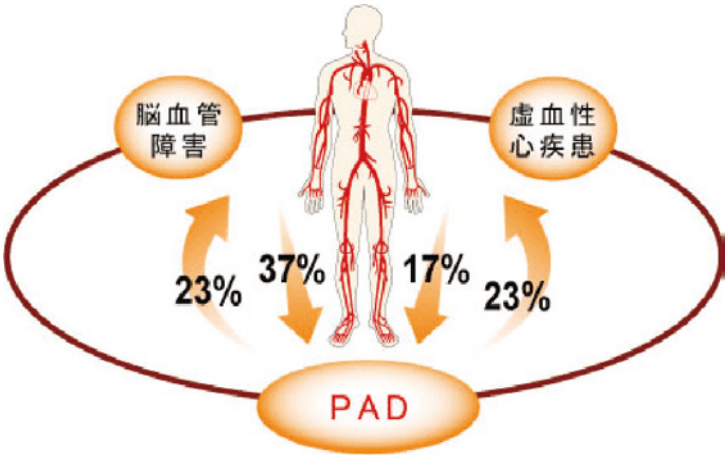
下肢閉塞性動脈硬化症は全身の血管の動脈硬化を合併していることが多い病気です。足の血管病変の部分的な治療だけでは長期的な生命予後を改善することはできません。全身の血管に目を向けて、薬だけでなく、適切な食事療法や運動療法をしっかりと行うことで、様々な血管病の予防や治療を早期からより積極的に行うことが重要だと考えています。

動脈硬化検査

検査室主任　安部　駒奈

虚血性心疾患や脳血管障害は、動脈硬化が原因で引き起こされる疾患です。

そこで、動脈硬化を診断・評価することが予防・治療を効率よく行うためには必要だと考えられており、当院で行っている動脈硬化検査を紹介したいと思います。

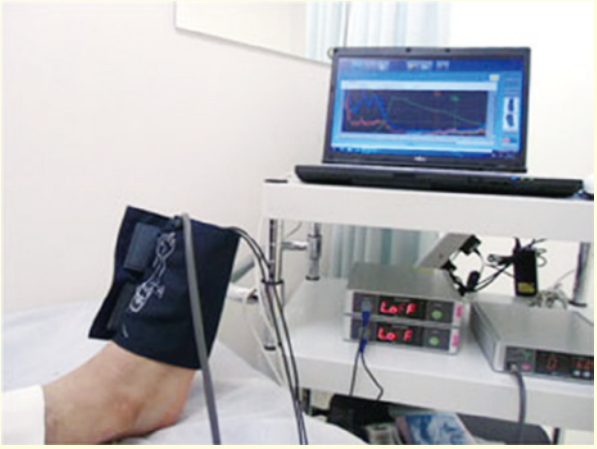


1 血圧脈波検査

ABI　下肢動脈の狭窄・閉塞を評価する指標で、上腕と足首の血圧から算出されます。

TBI　足趾の狭窄・閉塞を評価する指標で、上腕と足趾の血圧から算出されます。足趾の狭窄・閉塞を評価する指標で、上腕と足趾の血圧から算出されます。足趾血管は、石灰化を免れることが多く、TBIでは石灰化の進行している患者さんでも閉塞病変の存在を評価することが可能です。

CAVI　大動脈を含む心臓から足首までの動脈の硬さを反映する指標です。大動脈の進展性の低下は心疾患の発症や予後を規定する因子となることが知られており、早期診断と管理に役立ちます。



2 皮膚再灌流圧検査

SRPP　皮膚表面から3～4mmにある毛細血管や細動脈血管レベルの血流の程度を評価することができます。糖尿病足病変や石灰化症例の重症度評価、難治性潰瘍の治療予測・予後判定、下肢潰瘍の発症リスクの予測に用いられます。

この2つの検査は安静状態でベッドに横になっていただき、手足に血圧計のカフを巻いて測定するだけで検査は終了します。検査前の制約や、検査による身体的影響もありません。

高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病、肥満等動脈硬化が起こりやすい危険因子をお持ちの方、また検査を受けてみたい方は、担当医までご相談下さい。

医療安全管理委員会の活動

医療安全委員 3階病棟師長　**畑田　弘子**

「私たち人間はエラー（過ち）を犯すもの」という事を前提に、患者さんが安心して医療を受けることができ、また医療従事者が安全な医療を提供できるように職員の意識向上に向けて取り組んでいます。また患者中心で質の高い医療を目指して職員個人が、医療安全の必要性・重要性を認識し安全管理を上手くできるように日々努力しているところです。

当院の医療安全委員会は、診療部長の香月医師を筆頭に、医療安全管理者研修を受講した者を配置し、他のメンバーは各部門から選出された職員が担当しています。

定例会議は月1回行い、このとき各部署に提出されたインシデントやアクシデントの報告を行い、各部署で特に頻回に出てくる事例に対しては、図式化し原因追求と改善策を検討し報告しています。それと会議前に安全委員が院内の環境整備が不備なところをラウンドし改善点を委員会で報告しています。

病院機能評価でシェル分析も指導されたことでそれらを取り入れていきたいと思います。これからも医療倫理を念頭におき、安全に関する考え方の教育と現場経験を積み重ねながら、質の高い医療を提供し患者さんが安心して入院される環境を整備して個人レベル及び組織的に事故防止に取り組んでいきたいと考えます。

医療安全管理委員会による院内ラウンド

第56回 全日本病院学会 in 福岡

発表者と学会参加者

リハビリテーション室
上葉　亮太

今回、第56回全日本病院学会in福岡にて、ポスター発表を行いました。初めてポスター発表を行い、参加者の注目を受けるようなポスターを作ることの難しさを実感する事が出来ました。今後は聞き手のことを考えた発表をすることを念頭に置き、他の学会発表に活かせるよう努力していきたいと考えています。また、この経験により日々の臨床においても、今までと違った角度から見る視点が養われたように思います。これからも患者さんにとって、より良いアプローチとなるように自己研鑽を積み重ねていきます。

事務部
木下　愛幸

平成26年9月20･21日に、ヒルトン福岡シーホークにて行われた第56回全日本病院学会in福岡に発表者として参加して参りました。私は第6会場にて“病院事務管理･地域活動”のテーマで、演題は～当院における透析患者の実態調査～として発表させていただきました。発表の日を迎えるまでの約半年間、統計作業および学会資料作成や発表練習等を繰り返し行い、院内スタッフのたくさんの協力もあり、無事に発表を終える事ができました。

今回の取り組みを通して感じたのは、院内スタッフの協力の有難さです。学会発表という一つの目標に向かって皆の力を合わせたからこそ完成できたのだと思います。もしまたこのような機会があり、自分が発表者という立場に立たなかったとしても、自分の立ち位置から出来る事など、積極的に協力していきたいと思います。非常に貴重な経験をさせていただいた事に、心より感謝いたします。

医療機器管理室
河野　隆司

今回自分自身初めての学会発表をさせていただきました。内心すごく不安で緊張していましたが、7分間の発表はあっという間に過ぎてしまい、頭が真っ白になっている自分がいました。しかし、このような経験をすることによってプレゼンテーションやコミュニケーションスキルなど様々な成長に繋がる貴重な経験となり、自分の至らなさを実感したと共に大きな自信ともなりました。自分にとって学会発表を通じて得たものは多く、これからの人生においても財産となる貴重な経験だと思っています。

学会に参加する機会を与えて頂いた院長先生をはじめ、これまで多くのご指導を頂きました共同演者の皆様には深く感謝しております。

新人 野外研修

看護部　猿渡　晴香

5月10日、新人研修の一環として、リフレス大牟田にて、看護部、臨床工学技士の新人5名、教育委員6名の計11名で、リフレッシュ研修が行われました。

午前中は頭の体操とビーチバレーボール、午後からはバーベキューを行いました。頭の体操では、解剖生理学や看護の歴史についての問題が出題され、2チームに分かれてそれぞれ解答を考えましたが、問題の難しさ、解答率の悪さに驚きました。ビーチバレーボールでは、チーム内で声を掛け合い、全員が笑顔で楽しく賑やかに、運動することができました。バーベキューでは、火起こし班と買い出し班に分かれ、準備から後片付けまで全員で協力し、新鮮なお肉やお野菜を美味しく頂きました。自然に囲まれ、天候にも恵まれ、楽しい時間を過ごすことができました。

今回のような貴重な研修の時間を儲けて頂き、様々なことを学ぶことができました。今後も、杉循環器科内科病院の職員としての自覚と責任を持ち、地域へ貢献していけるよう、務めていきたいと思います。

杉の子子育て支援会

医療機器管理室　森田　裕貴

今回の子育てイベントは阿蘇のミルク牧場に行きました。

次男は恐る恐る羊のエサやりをしていましたが、慣れてからは近づいて「わんわん!」とはしゃいでいました。ウシもブタもあんなに間近で見るのは初めてで目を丸くして大興奮でした。お兄ちゃんは少し成長したのか家族と過ごすより友達と楽しんでいる姿が楽しそうでした。

手作り体験では、いつもすぐに飽きてしまうお兄ちゃんも「ボクがするー!」と言って最後まで上手にスイートポテトを作ってくれました。

帰宅してからもおばあちゃんたちに「トラックに乗ったよ!スイートポテト作ったから食べて!」と嬉しそうに話していました。子どもたちにとって素敵な経験になり貴重な体験ができました。ありがとうございました。

部活紹介

リハビリテーション室　**小渕　祥吾**

皆さんこんにちは。バスケットボールサークルです。今年度より当院と柳川すぎ病院の職員を中心に男女20名程度で活動をしています。このサークルは、職員の運動の場を広げたい、他部署とのコミュニケーションを図りたい、一番にバスケがしたい!との理由で始めました。色々な部署との交流の場としても活用でき、和気藹々とした雰囲気の中活動しています。未経験者も多くバスケットボールの楽しさをわかって頂けたらと思います。隔週で月曜日と木曜日にリフレス大牟田で練習に励んでいます。今後は大牟田地区の社会人バスケットボールチームとして登録し、大会に出場できるように頑張っていきたいと思います。興味のある方はぜひご参加ください。

バスケットボール

第12回 ナースカップ開催

事務室
草野　里沙

10月11日(土)大牟田市立体育館にて第12回ナースカップが開催され、当院からも2チーム参加しました。

昨年Bチームが優勝していたこともあり、二連覇をかけて気合十分で試合に挑みました。

予選リーグを勝ち進むものの、惜しくも決勝に上がることはできず優勝は逃してしまいましたが、2チームとも練習の成果を出せたと思います。

私は初の参加だったのですが、とても楽しく今後もビーチバレーを続けたいと思いました。

他施設との交流を深めることもでき、有意義な時間となりました。

職員旅行 in 北海道

リハビリテーション室
宮本　将也

平成26年7月12･13日で1泊2日の北海道旅行に行ってきました。新千歳空港に到着し、バスで札幌市内へ向かいました。途中で、ラベンダー畑に立ち寄り、満開のラベンダー畑は香りもよく、とても癒されました。札幌市内へ向かう途中では窓から、札幌ドーム、時計台などを見ることができ、バスガイドさんの説明を聞きながら歴史についてなど、とても勉強になりました。夕食はすすきのへ行き、カニの食べ放題でした。タラバガニ、毛ガニ、ズワイガニと三種類のカニをたくさん食べることができ、北海道の海の幸は新鮮で、お酒もすすみました。

2日目は、小樽運河の散策に行きました。多くの物産展が立ち並び、たくさん試食して様々なお土産を買うことができました。

普段はなかなか接することの少ないスタッフと交流を深めることができ、とても充実した二日間でした。このような機会を与えてくださり、感謝しています。

職員旅行 in 壱岐

医療機器管理室
甲斐　弘樹

平成26年7月26日、27日に壱岐職員旅行に参加しました。

当日は天候にも恵まれ、予定通りに博多港からフェリーで壱岐へ出発しました。

到着後は、バスに乗り換えて壱岐の観光地めぐり。地元の海女さんが採ったウニをふんだんに使用したウニ丼、壱岐の最北端の勝本港から数キロ先にある無人島「辰ノ島」へのクルージングなど、お腹も心も満たされました。旅館に到着後、持参した釣竿で魚釣りを行い、旅行に参加しているスタッフ全員分の魚を釣ることができ、旅館の方にその釣った魚を料理して頂きました。その成果のおかげで、夜の宴会ではスタッフの方と楽しく過ごすことができました。

2日目も引き続き、壱岐の観光地めぐり。海岸にそびえ立つ猿の顔にそっくりな猿岩や展望台から眺める壱岐の景色など、壱岐の大自然を二日間に亘り堪能することができとても感動しました。また、この職員旅行により他部署のスタッフの方々と親睦を深めることができたので、今後も職員旅行に参加していきたいです。